

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ハッピーテラス沖野上教室			
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日 ～ 2026年 1月 5日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35	(回答者数)	25
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日 ～ 2026年 1月 5日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 10日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動及び支援内容の多彩さ	○個々の特性や実態の把握を行う。 ○活動内容の精査し協議する。 ○個別支援計画を鑑み、具体的な支援方策を協議する。 ○活動後の内容、利用者の反応等、個別支援計画における目標との整合性や達成度を職員全体で評価し、改善点と改善策を協議する。又、ルールや動き、道具などの追加、同一活動での目的の改変などを協議する。	○個々の実態把握の精度を高める。 ・見取りのポイントを協議し、共通したより細やかで具体的な評価観点を構築する。 ・振り返りをもとに様々な観点や予測を行いながら活動案、支援方策案について検討する
2	速やか且つ丁寧な相談対応	○送迎時の対応として、現在の状況を何うようになっている。 ○助言を求められた際にアイデアを提供できるよう、支援方策等についての職員間での協議を重ねている。 ○要望があった際には、速やかに対応できるよう努めている。 ・誰もが初期の相談対応ができるよう、話し方、聞き方等のポイントについて研修を実施している。 ・円滑に業務の交代ができるよう、ミーティングの中で交代を想定動きを協議している。	○送迎時に話がしやすい空間的、時間的な工夫を行う。 ○相談しやすい体制整備 ・どの職員であっても初期対応以外の対応も可能のように研修を行う。 ・スケジュール等の共有を密に行い、速やかに対応できるよう努める。 ・個々の状況についての情報共有を行うとともに、相談等として対応が予測されるものを協議し職員間での共通理解を図る。 ・ミーティング等でその日の動きを確認し、突発的な相談等であっても円滑に対応できるように努める。
3	具体的な計画の立案	○個々の職員で日々の記録及び現在の目標を鑑み、次の目標について幾つか素案を考えている。 ○会議等の中で、素案や実態をもとに目標設定や支援方策について協議を行うとともに、必要であれば、さらに細かな段階分けでの目標立案を行う。 ○学年の切り替わりなど、ライフステージにおける区切りと本人の実態をイメージして計画の立案を行っている。	○立案に際しての実態把握のポイントや目標設定時の細やかな段階設定の目安等についての研修を実施する。 ○事業所の方針や学校等における指導目標、ライフステージの区切りとその際の環境変化の予測などの理解を図る研修を実施する。 ○素案段階での協議を密に行い、段階的且つ具体的な計画立案に努める。 ○日々の記録の際に、目標の到達度や次の目標の見通し、新たな課題などを相互に確認し合い、考えの共有を図っておく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動及び支援内容の多彩さ	○必要な際には連携を図ることはできるものの、日々の中での積極的な関わりは少ない。 ○平常時において共有する情報の精査が出来ていない。 ○予定を調整して連携機会を設けることが難しい。	○積極的に連絡を取り、情報交換を行う体制づくりに努める。 ○会議等において、他施設と共有する情報について整理し職員間で共有するよう努める。
2	速やか且つ丁寧な相談対応	○HPなどでの情報の発信が少ない。 ○掲載情報などの発信が少ない。 ○掲示や資料提供などは行うが、確認や一読の促しが少ない。 ○発信する情報作成や発信方法の業務的な負担が大きい。	○HP等への情報掲載時の発信を増やす。 ○掲載や発信する情報を増やすよう努める。 ○メールシステムなどの導入を検討し、簡単に情報発信を行うことができるように整備する。
3	具体的な計画の立案	○企画相談が困難である。 ○予定の調整が困難である。 ○交流等に関しての理解を図ることができていない。	○積極的に企画の立案及び相談を行うよう努める。 ○事業所や利用者の実態や目的の理解を図るよう努める。 ・自治体や協議会等を活用していく。